

設計図書が無い建物の現地調査と調査結果の扱い

抜粋 (既存建築物の耐震診断・耐震補強設計マニュアル：建築研究振興協会)

RC・SRC造

- ①寸法調査：柱（そで壁）、梁の断面寸法 壁（開口）、スラブの厚さ 柱、梁の内法寸法
- ②図面作成：伏図、軸組図、断面リスト（斫り部分、非破壊調査部分を明記する）
- ③配筋調査：柱をパターン（断面寸法、支配面積などで分類）に分けて、各階各パターンのうち最低1本の斫り調査（鉄筋の種類、径、フック形状）、非破壊調査（本数、間隔）を行う。
耐震壁は代表的なものにおいて斫り調査（鉄筋の種類、径）を行い、非破壊調査も行う。
梁は各階で代表的なものを行う。補強設計時には、少なくとも各階1本は斫り調査を行う。
大スパン梁は非破壊調査を行う。ひび割れ・たわみ等を確認したものは安全の確認をする。
- ④SRCの調査：斫り調査により鉄骨の位置、寸法、継手を確認する。
- ⑤コンクリート強度： 記述省略（別に記す通り）
- ⑥基礎：最低1か所は掘削し、形状・寸法・支持形式を調査する。

S造

- ①図面作成：配置図、平面図、立面図、屋根伏図、梁伏図、基礎伏図、軸組図
柱リスト、大梁リスト、小梁・床・壁リスト、鉄骨詳細図
接合部詳細図
柱脚詳細図
基礎リスト、基礎梁リスト
仕上げ材リスト、設備配置図、設備重量表